

えびあん

立川と語ろう 立川に生きよう

February 2022

Écoutez Bien Vol.38 No.443

2

最高の村を作るぞ!



一人前百膳

湯島の祇園豆腐

江戸の流行りは上方から。祇園豆腐は、京都八坂神社門前にあった二軒の茶屋で出していた田楽豆腐のこと。京都の田楽豆腐を「祇園豆腐」と名付けて看板を出していた。女川は近江国目川の地名で、目川（女川）菜飯田楽は東海道の旅人に人気の一品。江戸では大田楽として出していた。

それまでは仕出しに貸座敷だった江戸時代、半ばになると料理屋が登場する。浅草の金龍山の茶屋で出されるようになった「五^ご文^{ぶん}料理」は、一定のお金を出せばすぐ食べられるという、当時の人にとっては超便利な茶屋であつたに違いない。行きがけに頼んでおけば帰りには二汁五菜を出してくれ、それが人々の口にあつて流行つたというのも頷ける。以来あちこちに料理屋ができ、兩國橋詰の茶屋、深川洲崎、芝神明前、堺町では一人前百膳と銘打って、ひとり銭

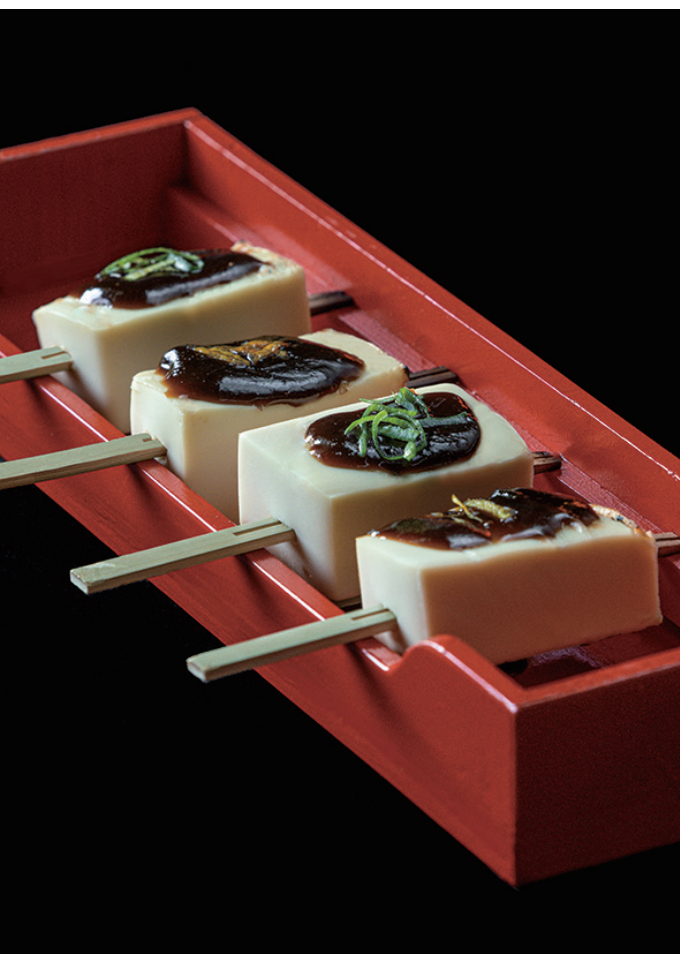
百文で飯を食うといった店も登場した。俳風柳多留にはこんな一句がある。

『かたぎぬをかけ百ぜんをくいにくい』

庶民の生活に馴染んだ様子が見えてくる。

店が多くなると、それぞれの店で特徴を出そうと努力して、例えば湯島の祇園豆腐、女川菜飯居酒屋の大田楽、湯豆腐などと名物を作る。宝暦の初めには、大平しっぽくという、大きな平皿にいろいろ料理を盛って出す店も現れた。

そうなるなどの時代も人の動きは同じなわけで、「あそこの料理はおいしいらしい、行ってみよう」とグルメツアー^{のふとぎ}しながらの食べ歩き。柳沢吉保の孫 柳沢信鴻は駒込



の六義園で隠居大名として暮らしていたが、あそこの料理屋はうまいと聞きつけると、そこへ散歩がてら行っていた。その記録が「宴遊日記」。

此程宵雨中橋樽屋三郎兵衛料理東都第一の由語る故 彼処へ志し 四時半より起行
……水道橋より猿樂町護持院原 神田橋外兵衛町より行 溝口を銭亀橋より先へ樽屋

尋に行しむ 中橋二而諸所尋れ共知れざる由
穴沢漸聞出し 上槇町にし出仕茶屋樽屋と
云有由 中々急ニハ出来ざる由ゆへ 又兵衛
町より帰り 常盤河岸に新く寄麗成煮売茶屋
有れハ 伊藤に聞しめ 早く出来る由なれ共
未食事を望されハ 石町一丁目より鐘撞堂
に観音有りと聞て……（柳沢信鴻「宴遊日記」
安永六年一二月九日条）

この日記、ご覧のように何時に出かけてどこを通過して何某かの店に行つたと書いてはあつても、食レポにはほど遠い。何を食べたのか、おいしかったのかまづかったのか、読み手が喜ぶのは今も昔もそのはず。ということ、次回はいっけりしたグルメレポートをお届けしよう。

高齢者にこそ必要なもの

文化や芸術の大切さ

公務員時代に経験し学んだことから、
自分の母親の介護経験から、
高齢者の介護にこそ、アクティビティが必要だと力説する

——素晴らしいご本が出ましたね。

佐藤 みなさん、読みやすいとおっしゃってくださいます。

——デンマークでは在宅介護が基本だと書いてありました。

佐藤 そうなんです。「自己決定」「生活の継続性」「自己能力の活用」を高齢者福祉の3原則と定めて、在宅介護が基本です。

——具体的にはどういうことですか。

佐藤 1つは、高齢者の自己決定を尊重して、周りはこれを支えるんです。2つめに、日本では、高齢になってから若い人と同居するために、慣れない土地に引っ越ししたりすることがありますが、そういうことはしない。高齢になっても、これまでの生活と断絶しないで今まで通り暮らしていくわけです。でも年をとってくると、今までできたこともできなくなる。ですから3つめに、今ある高齢者本人の能力に着目して、できる限り自立を支援する——これを行政サービスとして進めることをデンマークでは宣言しているのです。

——訪問介護が充実しているんですね。

佐藤 そうです。1人の高齢者に対して数人でチームを組んで介護に当たっています。訪問介護士は、高齢者を訪ねる時に排泄や入浴、食事といった介護状況をデータで行政に送信し、市役所が高齢者1人ひとりの健康状況を把握して、介護の質を高めることに役立てているそうです。

——前号で、統計数理研究所の千野先生に人口についてお話をうかがいました。今の日本は、独居世帯がダントツに多いそうです。若くても高齢者でもひとり暮らし。

佐藤 自立とか自己実現とか、言葉でも流行りましたし、親と同居しない世相というのはねえ…。人は楽な方へ流れますからね。

——ひとりは楽ですかね。2人の方が楽なんじゃないかと思いますが。

佐藤 それは意見が合えば楽かもしれないけれど、高齢期になってホームに入ると、「亭主の面倒はみたくないから」という理由で2階と3階に分かれて暮らしていますよ。

——ほんとに？

佐藤 そう。経済的ゆとりのある人は別々が多いですよ。ある有料高齢者施設には2人部屋というのがあって、1人になったら半分になるという構造です。これは効率が良くて、2人用ですが最初から分けて暮らしているご夫婦もいます。でも大抵は階を分けて別々ですね。

——佐藤さんは高齢者福祉を学ばれてきて、今は「文化・芸術いきいきネットワーク（以後Can）」の代表として、高齢者施設にアクティビティを届けていらっしゃるんですね。

佐藤 ええ。アクティビティって高齢者にはとても大切なことなんです。Canでは、本物のオペラを高齢者に届ける活動を続けています。例えば特別養護老人ホーム砂川園などにうかがいますと、オペラですからホール

をお借りしますよね。利用者さん全員車いすで迎えてくださるんです。正装されて、縦も横もきちんと並んで。それは実に壮観です。

——利用者さんは、おしゃれしているんですか。

佐藤 おしゃれしているんです。ある時、車いすの高齢者の方が、真っ赤なお洋服でいらしたんです。帽子も靴も、小さなボジャットまで赤い。そして「今日はオペラで若い歌手の方たちがいらっしゃるから」とおっしゃる。すばらしいと思いました。こうした服も職員の方たちが一緒にご用意されるんですよ。自分の選んだ服を着たい日に着る。生き生きとされているんです。

——デイケアの利用者さんたちが、上砂会館でやっている布アートを取材したことがあります。それも佐藤さんの活動の一部ですか。

佐藤 ええ、そこにいたはずですよ。私は布アートを教える立場で、Canのメンバーがサポートします。利用者さんがハサミが持てないとか布が切れないという場合に、自分たちで切ったという満足感が得られるようにサポートします。

——施設の職員さんは助かりますね、きっと。

佐藤 高齢者の方の意思を尊重してサポートしますから。結果、布アートの作品は、本当にその方の作品になるんですよ。みな

佐藤典子さん

高齢者アクティビティ・プロデューサー。1942年東京都出身。立川市役所を退職後、ケアハウス勤務を経て起業。高齢者のためのアクティビティ・プロデューサーとして幅広く活躍している。市役所時代に文化や福祉関係業務に携わり、東京都社会福祉総合学院で福祉経営を学んだ後、アメリカ、スウェーデン、デンマークの福祉施設を視察、見聞を広め、日本社会福祉事業大学社会福祉主事課程を修了。現在は「文化・芸術いきいきネットワーク」（略称Can）の代表として、地域活動に取り組んでいる。このほど著書「介護する人される人 心に届く 介護力」が出版され、毎日の疲れないケア実用集として多くの人に感動を与えている。

さん、上手なんですよ。色合わせとかもご自分で考えるのですが、普段は認知症で言っていることの辻褄が合わない方でも、こうして布を選んだりする時には、「これとこれは合わないわ」とか、ちゃんと考えたり言葉にしたりするんですよ。人は最期まで可能性があると私は思っているんです。——すばらしいですね。

佐藤 入門編の絵柄から始めて、だんだん大人の絵になっていきます。上達します。どうしても施設だとスタッフが少なかったりして、アクティビティまできめ細かくというわけにはいかないですよ。やってはいるけれど、ということになってしまいがち。色合わせと形合わせ、立体感を出すといった少し高度なアクティビティにするには、あてがうだけではできません。布アートだけではなくて、歌も歌いますし、朗読もします。Canのメンバーそれぞれが得意なこと、例えばフラワーアレンジメントなどでもアクティビティにしています。誰かが先生になって教える時には、他のメンバーがサポートします。——どこの施設に行ってらっしゃるのですか。

佐藤 立川周辺エリアであれば、どこへでもご希望があれば行きます。オペラを観て聴いて、涙を流す方もいらっしゃるので続けたいのです。

——高齢者の方の中には、あてがわれた塗り絵や、決まりきった手遊び、ただ映っているだけのテレビを嫌う方もいらっしゃるそうですね。人の尊厳ということを考えると、本当に文化って大事だと思います。

佐藤 舞台に立つ若者にしても、高齢期の方が真剣に聴いてくださるので本当に緊張して舞台を務める。舞台が終わった後の交流が、お互いに刺激になるんです。——素晴らしいひと時になるんですね。

佐藤 そういう感動を、私たち普段の暮らしでどのくらい感じられているか、生き生きと前向きに暮らせているか、問い直してみ

ると、高齢者から教わることも多いです。

——始まりはなんだったんですか。

佐藤 私自身が市役所に勤めている時に、文化的活動に多く触れてきたという下地がありました。その後、至誠ホームスオミというところで、スオミミュージックステージという音楽会を毎月1回やらせていただいて、その時新進の音楽家の皆さん、いまでは世界に飛び出していった方たちばかりですが、その方たちが毎月来てくださっていたんです。ジャズ、オペラ、シャンソン、篠笛、三味線…なんでもやりました。スオミにお住まいの方や特養の方、地域の皆さんが集まって、中でも地域の人たちが舞台を作るお手伝いをしてくださったんです。写真、照明、片付け、みんな地域ボランティアの方がしてくださいました。私が独立した時に、この会がもったいないからといってくださいったボランティアの方々が、今Canのメンバーの核になって一緒に活動してくれています。

——ボランティアのすばらしい活動ではありますが、やはり経費がということですよ。

佐藤 そうなんです。介護というと食事、排泄、睡眠、入浴の4大介護が基本的なことで、この4つがきれいに回せることが大事なんですよ。介護の中に楽しみとか暮らしを生き生きとか、私の好きなこと、というのはどうしても少なくなってしまうんです。

——でも、海外の事例では逆の発想で、楽しみを充実させると生きる意欲が湧いて、4大介護が楽になると聞きました。

佐藤 そうです、そうです。本当にそうなんです。でもなかなかそこに財力というのが備わらなくて、私たちの活動を回すには立川市の「街づくり支援金」とか真如苑さんの「shinjoプロジェクト」とかに申請してやってきましたが、もう13年目ですから、助走

期間ではないという理由で頂けなくなりました。でも営利事業ではないので、ご理解いただいてご協力願うしかないので。——どうやって運営されているのですか。

佐藤 私たちの活動を支援して下さっているのは、オペラの台本を作ったり演出して下さる国立音楽大学客員教授の中村敬一先生、それからジャズピアニストの山下洋輔さん。去年はコロナで開催を見合わせましたが、毎年1回12月に山下洋輔さんのご協力です。今年も満席で盛況でした。このコンサートの収益金を、高齢者にオペラを届ける活動に活用させていただいています。このコンサートは今年10回を迎えました。そして今年からは、活動をご理解、応援して下さる企業が出てくださって、嬉しい限りです。高齢者施設だけでのオペラ上演では私たちの活動自体が狭まってしまうので、2年前から柴崎学習館で「オペラレクチャーコンサート」というのを、一般市民向けにやっています。無料で本物の音楽をお届けします。今年3月26日（土）に開催します。——本当に地道ですばらしいのですが、佐藤さん、失礼ですが佐藤さんも後期高齢者枠ですよ。

佐藤 （笑）自分の年なんて忘れちゃいました。



最高の村、 RIVER VILLAGE

始まりは「カレーが食いたい!」

自分たちで育てたスパイスで最高のカレーを作り、
自給自足が体験できる畑付き住居の設営、イチゴの生産、自家製ハーブを使ってピザを焼く。
舞台は広さ1500坪のRIVER VILLAGE、略してリバビレ。

立川市の「川」＝「RIVER」と、武蔵村山市の「村」＝「VILLAGE」から名前をつけた。それが僕らのRIVER VILLAGE。武蔵村山にある美容室 hair bar freedomのお客さんだった農家の平井さんと、美容師でいろいろなことに興味を持っている小野田さんが出会って意気投合。最初は小野田さんの「カレーが食いたい!」がきっかけで、平井農縁の畑で「カレーに必要なスパイスを作ってみよう、自分たちの作ったスパイスでオリジナルカレーを作ろう!」そんな展開に。

2020年の夏頃から計画を実行に移して、まさかの失敗もあったし、たくさん悔しい思いもした。でもいつも楽しく、前向きに目標に向かって進んできた。目標? それはもちろん「最高の村」を作ること。将来的にリバビレには畑付き住居が何棟か並び、そこでは目覚めてドアを開けると、目の前に畑が広がっている。自分たちで野菜を作りビレッジ内で販売もするし、カレーを作ったりピザを焼いたり。カレーハウスはいつもお客さんと賑わっている。そんな楽しさとワクワクが詰まった現代人の憧れと夢を実現させてくれる。そんな村。

平井さんと小野田さんは、すでにリバビレ産の野菜を「俺たちの野菜」というパッケージで、ジョイフル本田瑞穂店、みのーれ立川、カインズホーム昭島店のマルシェで販売している。去年は葉物野菜や枝豆、トマトやじゃがいも、ハバネロなども生産、販売した。加工品としては、自家製の生姜を乾燥、スライス、粉末化して「生姜粉」と「Elephant Spice」という、中身は同じだがパッケージを2種類に分けて販売。これがまた、マジでうまい! 「世界一高いスパイス」と言われるサフランも、自分たちで収穫、加工してしっかり製品になった。

聞いていると心躍ることばかり。失敗も楽しんでしまう2人には、明るい未来しか感じられない。ちょっと面白いと思う人、アクセスしてみてください。あなたの生活も変わってくるかも。



最高の村を作るよー!



にんじんが2種類
カレーの具材にも使うが、
リバビレの野菜として販売する



フェンネル



平井祐太さん
RIVER VILLAGEの村長になります



リバビレの野菜畑 ここでスパイスも栽培している
夏には青々している



製品化された自家製の生姜粉
パッケージは2種類だが中身は同じもの

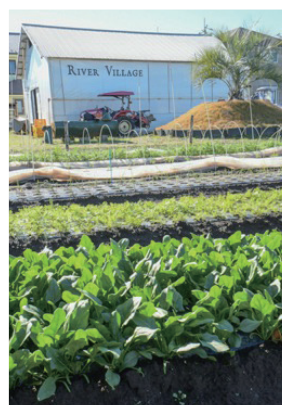


<https://rivervillage-tokyo.com/>

※平井農縁は、「農を通じて縁を深める」ことから 農縁 としています。



クミン



畑だけれどおしゃれな空間



小野田亮介さん
武蔵村山市にある美容室freedomのオーナー美容師さん

えくてびあんの輪	
えくてびあんはリストのお店にあります。 今日は 幸町・若葉町・栄町・高松町・曙町 のお店です。	
幸町	(株)松浦商事……………536-6001 至誠キートスホーム……………538-2323 とんかつ・割烹 かつ亭……………535-4611 ドイツ製法ハム・ソーセージ・ホフ工房 535-5009 和洋菓子 たちばな……………537-0347 青梅信用金庫……………535-3411 BSタイヤショップ 佐藤商会 537-0912 在宅療養支援診療所 立川在宅ケアクリニック 534-6964 古楽の小屋 ロバハウス……………536-7266
若葉町	浅見内科医院……………537-0918 スーパー ヤオコー……………538-1711 ありた整骨院……………534-1622 カフェ タイニーガーデン… 507-1346 カフェ・レストラン てくたく 536-5788
栄町	たましん 栄町支店……………536-9711 いなげや 立川栄町店……………523-7201 チーズ王国 本社……………513-4101 高橋酒店……………522-4479 彩食中華 須崎……………507-0981 寝具の石川……………524-1333 手作りパン工房 Bonheur ～ボヌール～ 536-3207 FUKUSHIMAYA 立川店 534-1700 メンズカット ヤザワ……………536-8738 (株)立飛ホールディングス 536-1272 大型コインランドリー マンチャオ栄町店
高松町	金田スイミングスクール立川立飛 ルーデンス食堂 米穀・食料品 横町屋……………522-2609 サイクルセンターシバタ……………522-3888 中華料理店 太幸苑……………527-0906 セイロン風カリヤ シギリア 507-2418 ライブハウス Crazy JAM 529-9507 立川湯屋敷 梅の湯……………522-3800 ヘアサロン イトウ……………522-6281 立川伊勢屋 本店……………522-3793 大野サイクル……………523-2061 立川キリスト教教会……………526-6826 サロン・ケベクア美容室……………527-4716 HAIR MAKES たしろ……………525-2175
曙町	うなぎ しら澤……………524-5061 中華料理 福心楼……………524-2343 久住ハウジング(株)……………527-8007 不動産 大晋商事……………525-3110 ヤマミュージックアベニュー立川 523-1431 蕎麦懷石 無庵……………524-0512 TABACCONIST ゼフィルス 524-0514 あら井館総本店……………522-2957 大衆劇場 立川けやき座……………512-5057 立川伊勢屋 ルミネ店……………524-3395 たましん すまいるプラザ立川 0120-667-646 オリオン書房 ルミネ立川店 527-2311 みずほ銀行 立川支店……………524-3121 コスメドール 辰己屋……………524-6051 エミリーフログ 本店……………527-1138 キャフェ クリムト……………526-3030 黒毛和牛専門店 焼肉 FUKI 523-0166 宮地楽器 MUSIC JOY 立川北 527-6888 三井住友銀行 立川支店……………522-2151 レストラン サヴィニ……………525-1662 立川献血ルーム……………527-1140



真如苑提供番組〈常楽我浄〉

スカパー！：529ch

スカパー！で放送の常楽我浄は
 スマホアプリ「スカパー！番組表」（無料）で視聴できます。

J:COM 多摩：11ch・111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

TOPICS OF TACHIKAWA

山下洋輔クリスマスジャズコンサート

今号のインタビューに登場されている佐藤典子さんが、インタビュー内で語っているコンサートです。社会福祉施設の文化活動を支援するためのコンサート。今回が10回目でした。2021年12月17日にたましん



立川市民でもある山下洋輔さん



山下洋輔さんと福岡高次さん（右）

無料コンサート クリスマスバージョン

2021年7月に開催された無料コンサートの第2弾。2021年12月22日、立飛グループ創立100周年記念事業 Vol.2 Sound of CHRISTMASが開催されました。今回はオーケストラを中心にコーラスグループやバレエなどとともに、クラシック音楽や耳慣れた曲がたくさん演奏されました。2024年に100周年を迎える立飛グループ。またの機会には是非、皆さんも「音楽で溢れる街」に出かけてみてはいかがでしょうか。



多目的ホールだけに、いろいろな可能性が見えました

お詫びと訂正

消防関係記事で、お詫びと訂正です。2022年1月号の今コーナー「街の話題」に掲載したGREEN SPRINGSでの消防演習の記事中、写真キャプションに誤りがありました。俳優の佐藤隆太さんに指揮棒を渡している方のお名前を清水洋文消防総監と記しましたが、正しくは佐藤芳邦立川消防署長でした。お詫びして訂正します。

立川は科学で盛り上がります

12月4日、幸町の第八小学校で、「宇宙エレベーターロケット競技会立川大会」が開催されました。えくてびあん



宇宙エレベーター立川大会（第八小学校体育館で）



水の不思議を体験した「水の科学あそび」



目に见えない電波を捕まえた「自分でAMラジオを作ろう」



太古の地球と触れあった「化石と鉱石」



本物のプラネタリウム解説員さんから話が聞けちゃう「プラネタリウムドームで星のお話 星座早見盤づくり」



優勝したチーム

が「宇宙エレベーターロケット」の取材にうかがったのは、2019年11月4日に神奈川大学横浜キャンパスで開催された第7回の全国大会。第一小学校のメンバーが小学生部門の全国3位になった時でした。実はこの前年の第6回の全国大会でも、第八小学校のメンバーが全国3位に、さらに第4回全国大会では立川市立科学センターのメンバーが準優勝しています。小学生がプログラミングしたロケットがしっかり働いてくれる様を見るこの大会、とても面白いです。女子もたくさん参加していて、いわゆるリケジョが育っているのも嬉しいですね。その立川大会では、以前取材させて頂いた時に小学生だった子どもたちが、すっかり指導者になっていました。

一方で、本来なら夏休みに企画されていた「科学のひろば」も、開催をコロナが下火になった冬休みに移して開催。これもまたとても面白い。

地域の方や大学生が先生になって教えてくれる授業は、子どもたちの興味を喚起し科学への入口としてとても素晴らしい取り組みです。数十年前の子どもは日常に触れる自然の中で科学への興味を持ちましたが、今はこうしたことが大事なのだなと改めて感じさせられました。どうして？なぜ？と現代の当たり前を再認識させるこうした機会、立川だからこそ！です。参加した方が得ですね。えくてびあんが取材できたのはほんの一部で、全部見られなくて残念！

表紙

新しい光の中で

壬寅の初日の出。多摩川で6時56分に撮影しました。寒波厳しく冷えた朝でしたが、日野橋の上には人が林立。まさに林のようです。よく見ると、今時ですね。太陽を拝むのではなく、スマホを掲げている人がいます。日本一高い場所 富士山頂では6時42分に初日の出。平地で日本一日の出が早い犬伏峠では6時46分、立川では6時52分でした。沖縄の与那国島では7時32分、宗谷岬では7時12分。地域でずいぶん差があるものです。どこにあっても、初日の出、目にすることができれば気持ちがいい。清々しい気持ちを保ちながら、お互いさまにがんばっていきましょう。良きことが多い年になりますように。

かたこと

◆新年になって、あっという間に1月もあと少し。月日の経つのは本当に早いものです。昔の人は「一月往ぬる二月逃げる三月去る」と言ったそうですが、今年も大きなイベントがいくつも企画されています。無事に実施されることを願うばかりです◆2021年末、世界各地に急拡大したオミクロン株。強い感染力ではあるけれど、無症状、軽症で済むなどという情報も流れています。けれど相手はウイルスですから、今後の変化は未知数です。基本的な健康を保つ努力は欠かせません◆コロナ禍で働き方が変わったと言われていました。男女とも働いている時間が減少し、感染防止対策により時差通勤や在宅勤務が増えました。男女とも家事にあてる時間が増えたというのですが、女性の家事充当時間は変わらない。むしろ増えているのです。子どもが家にいると、どうしてもそうなるのかもしれない◆一方で、ワーキングマザーの活躍も顕著です。お母さんが働いていることが普通になった時代、今度はより仕事に集中したいお母さんも増えてきている。今号のインタビューに登場いただいた佐藤典子さんは、立川市役所で活躍する女性の草分け的存在です。岸中市長時代から行政の中で文化や市民活動に多く携わってこられました。御年80歳。待ち合わせ場所に遅れずきっちり来られて、資料を見せながらプレゼンする姿は素晴らしい。元祖ワーママ、これからもお元気で、続くワーママにご指導ください◆立川に寄り添って、今年もまた1年、えくてびあんはみなさまに地域の情報をお届けします。よろしく願い申し上げます。えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ⑨

2月号 第38巻 通巻443号

令和4年2月1日発行
 発行 有限会社えくてびあん
 〒190-0023
 東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
 TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
 E-mail message@tamatebakonet.jp
 URL https://www.tamatebakonet.jp
 発行人 黒須 環
 企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
 デザイン 池田隆男（WATER DESIGN ASSOCIATES）
 印刷 三浦印刷株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

消防総監感謝状贈呈式

12月22日立川消防署で「消防総監感謝状贈呈式」が行われました。2021年11月29日砂川町で火災が発生。近所の公園で遊んでいた小学生4人が、木造家屋の2階から煙がでているのを発見し、そのうちの1人が大声で自宅にいた家族に報告。お父さんと中学生のお兄ちゃんが現場へ急行、途中お兄ちゃんは正確に119番通報を実施。現場到着後、お兄ちゃんは逃げ遅れがいたことを再び通報。お父さんは火災現場に飛び込んで、2階にいた住民を救助しました。

なかなかできることではないけれど、家族の連携によって火災を最小限に抑えることができたのは本当にすばらしい。実はこのお父さん、川崎市の消防局にお勤めです。日頃の訓練が身に付いていると同時に、お子さんたちへの防災教育がしっかりなされているのでしょう。清水洋文消防総監は「連携によって火災を最小限にとどめてくれた」と感謝状を贈呈しました。



みんなの連携はすばらしかったですね

ホテルエミシア東京立川に 優マーク

ホテルエミシアさんには既に優マークが1つ交付されています。12月16日に手渡されたのは、2つめの優マーク。本館に隣接するタワー館に交付された優マークです。優マークは、防火安全上優良と認められた安全安心な建物の証です。駅から近いホテルですから、優マークが交付されるのは利用者にとってもありがたいことですね。



優マークを受け取る業務課課長の木内和彦さん
(右は立川消防署予防課長 内山結理さん)

1年間ありがとうございました

年末年始はなにかと消防関連の話題が豊富になります。1月9日には出初め式が行われましたが、華々しいイベントばかりではありません。2021年12月28日、日が落ちてすっかり寒くなった時間から、立川市消防団の歳末火災予防の巡回が始まりました。清水庄平立川市長、佐藤芳邦立川消防署長、福永輝繁第八消防方面本部長他の激励を受けて、ポンプ車が市内へと出て注意喚起。立川市消防団には2021年も大変お世話になりました。2022年も引き続きよろしくお願い申し上げます。



寒空の下、参集訓練の後、市内を回ります



消防団のポンプ車が次々出て行きます